

糸魚川市駅北まちづくり会議（推進会議） 記録

日時	令和2年3月4日（水）13:30～15:00	会場	糸魚川市役所 201、202 会議室
件名	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 駅北まちづくり戦略の中間報告について (2) 今後の予定について (3) その他 4 閉 会		
出席者	米田徹 糸魚川市長 糸魚川商工会議所 猪又史博 会頭 糸魚川広域商店街 小坂功 会長 一般社団法人糸魚川市観光協会 佐々木繁雄 事務局長 ひすい農業協同組合 吉原勝廣 組合長 ぬながわ森林組合 岩崎秀治 代表理事組合長【R2.3.2 変更】 大町区 齋藤伸一 区長 新潟県糸魚川地域振興局 八木威 局長 推進会議座長 清水 義次 (外部アドバイザー) 実践会議座長 西村 浩 (外部アドバイザー) (欠席：糸魚川信用組合黒石 孝 理事長)		
	【概要】 1 開 会 2 あいさつ (概要) (米田市長) ・実践会議委員の積極的な戦略検討に感謝。中間報告について推進会議の委員の皆さんからご意見をいただきたい。 (清水座長) ・駅北広場キターレ完成が近づいている。防災の拠点であり、なおかつ市民のための集いの広場で、キッチンが三つ作られ、誠におもしろいと感じて見てきた。にぎわいが生まれ始める全国でも稀な面白い施設になる。 ・この段階になるとまちづくりの中身が大切になる。どんな活動が生まれてくるかということが事の本質だと思う。実行に繋がるような形で、実践会議での議論が積み上げられたと期待している。 ・駅北まちづくり戦略の中間報告ということで、委員の方々、ぜひ忌憚のない意見をそれぞれの立場から発言していただきたい。		

(事務局)

- ・推進会議委員の変更について、森林組合様について、業務部長の伊藤様から代表理事組合長の岩崎秀治様に変更。
- ・欠席委員の報告（糸魚川信用組合 黒石 孝 理事長）

3 議 題

(1) 駅北まちづくり戦略の中間報告について

=資料1= 事務局説明

(清水座長)

- ・実践会議の西村座長から補足ありましたらお願いします。

(西村座長)

- ・実践会議で様々な外部講師の方から来ていただいて、この他、リノベーションスクールの講演などを含めて、多くのことをインプットしながら、改めて自分たちの町のことを考えてきた。
- ・ほかの構想等ではコンセプトを打ち出すことが多いが、駅北まちづくり戦略では自らの活動としてどのように実行していくかがポイント。
- ・実践会議の委員は、子育て、地産地消、高齢者元気部会のいいアイデアであればあるほど横断的な取り組みが必要であることに気づき始めている。
- ・戦略の活動アイデアは、地域課題の横ぐしが刺さっている。
- ・4月以降は、再度活動をブラッシュアップしていき、まちづくり戦略が顔の見える実効性のあるものとしていくことが作業となる。

(清水座長)

- ・委員の皆さんにお話しをお聞きする前に、この戦略を考えるとときの社会の基盤としては、人口が減り、高齢化が進み、少子化が進む縮退時代であるということ。
- ・現在の停滞は1992年、バブル崩壊1991年の秋以降、デフレに突入してさほど変化が無いというのが定説。デフレに人口減少、コロナウイルス、今はまさに堪え処。
- ・成長時代は、行政主導で構想を高らかにうたうことで成長できていたが、今はそれとは異なるやり方が求められている。行政にとっては都市経営の継続が特に重要になった。人口減少を緩和することが現実的なテーマになり、戦略のなかで「地域内の経済循環で豊かな糸魚川を作る」というような、今までとは異なることが盛り込まれていることが大事なポイント。
- ・人口減少社会のなかで、より豊かに糸魚川の暮らしが維持できるようになるには何が必要なのかということが基調にある。今は、勇ましい構想に社会の成長がついてくる時でなく、構想が宙に浮いてしまう現実がある。顔が見える・実行できるこの駅北まちづくり戦略はこれまでと違う。

(西村座長)

・議論の際の欲しいアイデアだけでは実行性がない。“欲しい”を”やる”に移行していくステップを踏んでいく。

・アイデアを出す1つのポイントとして、これまでのゲスト講師の講演のなかで共通していた考え方が「地域のなかにある資源等を循環させる」という話である。域内資源を上手に循環させることができるとお金がかからなくなる。(昔はお互いが必要なモノを交換したり共有したり、人手が足りない時には声を掛け合って助け合ってやってきた)それが一番豊かな暮らしと気づき始めている。お金が無くてもできることを考えることが、豊かで新しい暮らし方を発明する一番の原動力であったり、何かを考えるきっかけとなる。

・実践会議の皆さんと糸魚川をより豊かにしていくアイデアを実践していく場面に移っていききたい。

(清水座長)

・豊かになれるアイデア、仲間とつないでいく力など、市民に期待できる状況になってきた。糸魚川の志をもつたくさんの民間企業の方々が連携して、新しい経済循環を考えられるまちであると思う。

・若手市民の方々中心の実践会議の報告であり、推進会議委員の皆さんから遠慮なくどんな観点からでもご意見いただきたい。

(米田市長)

・活動のアイデアをつなげることで新たな展開も期待できる。これまでは「子ども達のために」だったが、子どもの“ワクワク”という状態はわかりやすい。地産地消について、森林資源によらず、様々なものを循環型経済に照らし合わせたときに、新たに働く場もでてくるし、人材も来てくれるのではないかと期待する。高齢者元気は個人の趣味サークル等を基本に健康活動などに繋げていければ良い。活動のアイデアは、ワクワク感のあるものから繋げてもらいたい。

(委員)

・糸魚川のヒスイを新潟県の石としたいという活動を始めている。糸魚川にあるいいものを全面に出していきたい。出雲との縁で神話の会という団体もできており、全国に糸魚川の良さを知ってもらえると考えている。

(委員)

・森林組合の仕事は川上の仕事であり、森のミネラル分が姫川などの河川に多く含まれており、最終的に豊かな漁場の育成にもつながっている。

・前回の推進会議に出席できなかったが、「森林は油田である。」という座長の言葉に興味をもって参加させていただいている。

(委員)

・糸魚川には高価値なものがある。例えば食材は美食である。しかし、市民には当たり前になっていて、その価値を語っていない。地産地消部会の議論で「糸魚川にあるもの、つくられるものの価値を再定義（ローカライズ）」とあり、大事な視点であると思う。

・今回の議論を通じて、市民ひとりひとりが糸魚川にあるものの価値を再認識し、それを自らの言葉で語るということに繋がっていくことを期待する。

(委員)

・糸魚川市民の性格は雪国気質。雪道を一番先に歩くことはせず、道がついたところを歩いていく。西村座長が、リノベーションスクール等で市内の若者の気持ちをあげていることは素晴らしくありがたい。若者より少し大人の意識を変えるには時間がかかるが、若者の取り組みが進むことで、糸魚川全体の意識が変わっていくことに期待したい。

・文化に関して、郷土の偉人である相馬御風のお宅が大町区にあり、そこに来られる方々は多い。また、糸魚川ならではのバタバタ茶がなくなったが、みんなが集まって、大紅屋などを活用してはどうか。併せて、フォッサマグナミュージアムのミニチュアでも、ヒスイの研磨でも、そんな昔ながらの文かにふれる場づくりができればと思う。

(委員)

糸魚川の観光について、魅力的なものが多すぎて、反面これと言ったものないと言われている。そんな中で、観光客が市内の伝統行事である1月15日の竹のからかいに参加して大変喜んでいただいた。

・事前にいただいた実践会議の資料に、活動の広げ方として、1個の活動で複数の課題解決の方法を考えるという文言があった。ヒスイを中心にいろんなストーリーが描けるので、今後の誘客を図る参考にしたい。

(委員)

・3つのテーマに共通している点は「暮らし」と感じた。当組合では地産地消の「食」について関連深い。食と農をつなぐ活動も進めてきており、これを組合の基礎的な活動として、この駅北まちづくりを契機として、さらに広げていくことが重要だと感じた。生産者のやりたい想いに、組合としてはこれからも応援していきたい。

・3つのテーマのなかでどれだけの活動をつなげていけるかが、今後のテーマとなると見させてもらった。

(委員)

- ・リノベーションスクールでは、これまでの商店街にない取り組みだと感じた。
- ・時がすぎ、昔ながらの商店街長屋のコミュニティも失われつつあり、寂しく感じている。
- ・活気のある場所を目指して、戦略の取り組みを1つでも2つでも実現してほしい。商店街も協力していきたいと考えている。

(米田市長)

- ・公衆トイレが足りないと聞くが、各店舗でトイレを使用しても良いという表示をすることで、立ち寄る人や来客が増え、買い物もしやすくなるようにならないかと考えている。そのようなところに行政も支援できるのではないかと思う。

(委員)

- ・おまんた祭りなどでもトイレ提供のお願いしている。お客様から申し出があれば、個店ではトイレ使用を断ることはないが、積極的に手をあげていただけていない。

(米田市長)

- ・人口減少社会で、新しい発想で、みんなで取り組むことが重要。

(委員)

- ・まちづくりは糸魚川市全体で考えたほうがいいが、駅北の話となると、まちなかだけを発展させるのかという声もある。若者はこの戦略でも多くのアイデアを出してもらっているが、それより年配の大人の考え方を考えるには時間がかかると思う。

(西村座長)

- ・駅北まちづくり戦略は“まちなか”だけに対応するものではなく、その方針や活動の多くが他の地域に展開できるプログラムになっている。行政が何かやるための戦略ではなく、市民が当事者として行動しようとしているだけで、他地域でも当事者がいれば展開できる。
- ・世代間の話となると、先輩方々は、これまでの右肩上がりの時代のまちづくりを担い、素晴らしい文明を作ってくれた。若者は、人口が減っていく未来のまちづくりであり、違うことをしないといけないと気づいている。時代の変わり目だから、両方の考えの人がいて、違うところがあってもお互いに尊重すること。それで、共存関係を作っていくからこそ、次代をつくる面白い発想が生まれてくる。

(清水座長)

- ・ポイントを少し整理すると、糸魚川市から流出しているお金への着目が1つ。流出

しているお金のものを内製化できたら市民は確実に豊かになる。専門的な用語を用いると「輸入置換」。域内で生産して輸出しようとする動きで、昔の日本の自転車産業がまさしくそれであり、現在では輸出産業になっている事例。

- ・「森林は油田」といわれていて、高温多湿の日本の環境で杉はよく育つ。これをエコハウス、バイオマスの燃料などに使用し、エネルギーをロスせず、外部流出しないようにする。海外では、地質の良さ（豊かさ）はワインなどの農業産業にもつながっている。このことを今日の参考資料の1枚が表している。川上から川下の森林、中山間地、駅北とつながって糸魚川は復活する。

- ・まちのコンテンツはまちの人が生み出し、ナショナルテナントが出てきても意味がない。糸魚川のオリジナルコンテンツがどの程度生み出されるかというところがポイント。

- ・情報によって行動がおきる時代。まずは交流人口と関係人口が増やし、定住人口はその後。中間報告の13ページに付け加えるとする、成長曲線の「小さな事業が生まれる」次に「情報発信」が加わるのが大切。糸魚川ではキターレのオープンから、小さな商いから小さな産業を生み出す厨房という舞台がある。その面白い活動がどれだけ発信されるかが集客のポイント。関心人口という言葉もあるが、情報発信を行政と民間でやり続ける。情報発信と集客量は比例する。そのために、まずはおもしろい人間が何かやり始めること。忘れずに、周囲（中山間地）と真ん中（駅北）がつながるという概念をもって取り組んでもらいたい。

- ・まちなかと自然までの距離がとても近い街が糸魚川。まちなかの市営住宅の空き部屋の活用を検討した方がよい。安価に継続的に情報が発信され、まちの周囲とつながったまちづくりを進めていくが重要。

（2）今後の予定について

（西村座長）

- ・8月を目途に戦略をまとめるため、これからまず何から始めるか、誰が中心になってやっていくかを皆さんと考えるが、難しいことが起きたとき、壁にぶつかったときに、この中間報告のコンセプトに立ち戻る。

- ・具体化していく流れを4月以降の4回のスケジュールで行う。具体案とコンセプトなどについて、軌道修正を加えながら整理、調整して、5・6月にまとめ上げていく。

- ・7月の推進会議では、実践会議でまとめた内容を発表すること予定としている。

- ・構成案について、中間報告をビジュアル化しながらセッション1からセッション6までまとめあげていく。なぜ駅北なのかというところについて、消費地であるまちなかの暮らしと、里山の暮らしのつながりなどをセクション1で書いていきたい。セクション2では、駅北の現状として、住宅の話であったり、公共施設の在り方なども少し状況を整理する必要がある。セッション3は、糸魚川のリノベーションまちづくりを整理して中間報告であった「暮らしの風景」などを示したい。三つのテーマを中心

に、目標像を定めるセクション4。セクション5以降では具体的なアクションを、セクション6は公民の連携であったり、民間同士の連携をまとめあげたいと考えている。

(清水座長)

・ありがとうございました。

(3) その他

(米田市長)

・その他の報告として、交流人口、関係人口が大事だとの意見があったが、糸魚川市として千代田区と相互発展連携協定を締結した。これまで文化や伝統的なことにつながりをもっていたが、地場産業や防災でつながっていく。世田谷区とも有効な関係性を築けており、駅北まちづくりにもプラスの方向で動いていくものと考えている。

(事務局)

・会議録確認の依頼。

3 閉 会